～　第６次留萌市総合計画意見交換会　～

１．留萌商工会議所

【開催概要】
○　平成 28 年 7 月 19 日（火）　13:30～15:15
○　商工会議所　１階　会議室

【出席者】
会議所
常議員：塚本、二ノ宮、丹野、中野、澤井、中川、鈴木
監　事：森
議　員：成保(代理)、井上、古野、貝森、西野、藤野、(串橋)
事務局：川村、村山　　計１７名
座　長：伊端委員
委　員：串橋委員
市　　：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査
【報　道】　１社(留萌新聞)

****
【資料】
第６次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント

【内容】
①　座長挨拶
②　市民会議案説明
③　意見交換
〔基本テーマ〕
●　基本テーマにひらがなが多すぎる。ひらがなにすることで全てが許されるような現代日本の悪い風潮だと思っている。
留萌再生でいいのではないか。地方再生と今言われている中で、再生の中には、全てが組められていることだと思う。

〔重点化・実効性〕
●　市民会議が作っても、行政がそれをどのように扱っているかが問題。
●　意見を交換する場ができたのであれば、具体的な進め方なども決めていった方が、現実性があると思う。
●　どれか一つにターゲットを絞る
●　３階層の計画を作るのも分かるが、基本計画にまで踏み込むぐらい、現実味のあるものに。
●　団塊の世代が 65 歳を過ぎた。一番人口の多い世代が 70 歳を迎え、今後加速度的に人口減少が進む。施策にはスピードが必要になってくる。
●　実現性を担保するというところで、施策単位で提言できないのか。市民会議でこんな意見が出ましたではなく、基本計画の中にこういうものを作るというものを基本計画に盛り込んでほしいというところまで提言。
●　人口が減っていく中で平穏に見える。危機的な状況だということを共有しているのであれば、改革のチャンスだと思わなければいけない。
●　全部の目標を掲げるのもいいが、重点化すべきものを絞っていかなければ、達成は難しいと思う。
●　教育において、英語だけに取り組む。幼児から徹底的にやり、道内一の英語が喋れるまちなど、予算規模、人口規模の中で強いものをつくるという精神が必要ではないか。
●　どこの世代をターゲットにするかということ。これからの生産年齢人口をどのように増やすまちづくり。

- 青写真があることで、それに向って経済活動が動き出す。早い時期に青写真を固めてほしい。
- 10 年計画で考える時代なのか少し疑問に残る。

〔検証・市民参加〕

- 市ではＳＷＯＴ分析をやっているのか。弱い者は強く、強いものはより強くする必要がある。
- 施設やイベント、子どものスポーツ教育環境が減っていると思う。子どもの伸びる要素を奪ってしまっているように思う。
- 過去をやり直すことはできないが、過去を検証することはできる。市立病院と温水プール、これだけの施設が必要なのか検証することをしっかりやっていれば、５～60%の規模で、管理費も抑えて継続可能な施設になっていたはず。
- ＫＰＩ、目標数値。活性化させるにもどこまでという数値が無ければ分からない。
  基本構想に入れ込むのは難しいかもしれないが、ニュアンスが感じるようなものが作られれば実行力ある基盤ができると思う。
- 市民会議の主な意見がかかれているが、そこをもっと出していくべき。
- 具体的施策提案の場、皆でやっていけることを議論する場が必要
- 市民が参加する仕組み、まちづくりを一緒に進めるという仕組みを作ってほしい。
- 市民がもっと関心を寄せて反対議論があってもやってきたもの。計画を立て、実行するときに、身の丈に合ったこれから未来に継続可能な施設、継続可能な場所に建てるという議論が一番大事なところ。
- 子どもたちに教育としてこういうマチでこうなっていくということを理解させる、理解しようと努力をさせることが大事だ。
- 留萌の状況は末期的という認識でいる。このマチの特異性として「人任せ」が多い。

〔人口減〕

- 人口減少によってできなくなったことがあると思う。減少した要因を取り除いていかなければ、減り続ける。
- 人口減に伴う税収減は避けて通れない。人口減少対策はどうなっているのか。
- 税金は人口減少に比例して減っていくということをしっかり議論していかなければいけない。
- コンパクトなまちづくり。ここには住めない地域だということを言わなければいけない。あなたはここに集合・住みなさいと、良い人をやめてきれいごとではなく、こうしなさいという具体的な方策を、どっかを切り捨てることと同じこと。ここに集約するということは、どこかを疲弊させること。それを言える人がいるかどうか。

〔施策〕

- 留萌市は所得ベースでは官庁のまちであり、どちらかというとアウトバンド産業である。ローカル産業が無いため、同規模自治体と違って循環しないマチという特徴がある。
- 誰も札幌市になろうと思っていない。小さくても強靭になればいい。全ての業種が強くなるというのはあり得ないので。
- 「地域間競争力」特に観光はどこもかしこも観光と言っている中で、競争力を高める方法を考えてほしい。
- 観光客を呼びつけるような海以外のものをつくれないか。観光に力を入れてくれれば人も集まり、賑わいが戻る。増毛みたいなまちづくりをやってほしい。
- 優先順位。市民会議案で入れてほしいのは、一番は経済、雇用です。一番の柱だと思う。組まなければ人口は増えない。働く場がなければ人は増えない。
- 道路ひとつをきれいにすることだけでも観光客は来ると思う。
- 子どもたちが通年で使えるプールにしてほしい。
- 水産加工業を中心とした商業のマチづくりを提案したい。若手が起業しやすい環境、失敗しても守っていく制度、税金を軽減する制度を作ることができないだろうか。
- リタイヤ後に、どこに居住地を置くのか。過ごしやすさ、暮しやすさ、魅力のあるまちでなければ、残らないし人が集まってこない。
- まちの人全体がセールスマンに。

２．留萌商工会議所青年部

【開催概要】
○　平成 28 年 7 月 21 日（木）　13:00～14:31
○　市役所 3 号会議室

【出席者】
会議所青年部：
工藤会長(ヴォーグ)、森田(モリタ包装)、
梅田（ｍｙｕ）、村上(ムラカミ整備工業)
座　長：伊端委員
市　　：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

****
【資料】
第６次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】
①　座長挨拶
②　市民会議案説明
③　意見交換

〔人口減少・移住定住〕
- 人口がなぜ減少していくのかその要因分析が必要で、働く場所がない、進学のため一度出たら帰ってこられない悪循環。
- ふるさと納税が熱くなっている。しかし、税収のみを考えもともとの移住・定住が置き去りになってしまっているように思う。人が来る、住むことで税収があがり、お金が回っていく。
- こんなものがあるではなく、マックもない、何もない、のどかなまちだということで、ヒットする人がいると思う。それと合わせて仕事の紹介ができればいい。
- 学力テストの公表で留萌管内の状況が悪いとなれば、来たがらない。

〔市民参加〕
- 団体ではなく、一般市民を巻き込んでいく体制が必要。
- 実施計画の段階で多くの市民がかかわれることで、いろんな意見も聞きやすいと思う。
- 総合計画では実際の動きが見えてこない。事業を進めるときに見えてくるもので、その事業の中で意見を聞けるような仕組みがあってもいいのではないか。

〔観光〕
- 観光する場所は海しかない。温泉、宿泊を求めるお客様が多い、もったいないと言われる。
- 留萌の境界線がハート形である。人を呼び込めることを考えたい。開運町の「開運」、ＫＡＺＵＭＯちゃんの「子宝」、「縁結び」、船場公園に愛の鐘、愛の椅子などの設置、関連商品開発も含め数の子商品も関連付けて売っていけるのではないか。
- 冬に留萌に来られる方が、道路の雪山が危ない、排雪が行き届いていないという。危ないイメージを持たれている。最低限きれいにするだけで人は来るかもしれない。

〔仕事・雇用〕
- 水産加工業は、昔は地元のお母さんたちであったが、今は中国人に変わってしまった。水産加工業が仕事、雇用頼みであって、外貨を稼いでもらう、地元雇用してもらうようなバックアップ体制は作れないか。
- まちの中心を決めることによって、公共事業の大義名分が付く。
- 今回「港」という文字が前面に出てきていないのではないか。港からの経済効果は大きいが、難しいのが現実だと思う。しかし、最上位計画から無くなるのは、問題ではないか。

３．ＪＡ南るもい農業協同組合

【開催概要】
○　平成 28 年 7 月 22 日（金）　10:00～10:50
○　ＪＡ南るもい会議室

【出席者】
農協：太田参事、伊藤農業振興部長
委員：伊端座長、大舘副座長
市　：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

****
【資料】
第６次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】
①　座長挨拶
②　市民会議案説明
③　意見交換
- 新規就業者のみならず農協職員すら採用申し込みが無い。高卒採用枠と同数の申込みであり、採用の選択ができない。
- 幌糠のハウス、農業支援は、モデル事業であるが人材確保が課題。
- 子どもが減少する中で、魅力ある職場つくりが必要。Ｕターン希望者もいるのかどうかも分からない。情報が無い。
- 高齢による離職が進んでいる状況。作る喜び、就農に向けた体験、人の受入を考えていかなければならない。
- 農繁期の人材確保も困難になってきている。本人の高齢化とともに、これまでの人材も高齢化。
- 人材派遣制度、会社を設立できないか。農業分野だけでは通年雇用にならない。水産業などいろいろな業種に渡ることで、通年で仕事を確保し人材を確保。出資することが可能になる。農業者負担の増額は難しい状況にはある。行政のバックアップ必要。
- 個人、法人ともに発信力が無い。束ねることで力が増す。
- いきなり新規就農は難しい。短期間でも結果に繋がらないと思うが、体験から将来的に就農の道を導いて行ければいい。
- 農業や他分野の仕事量の把握とマッチング機能を誰かがやらなければならないが、スタートは行政にお願いしたいところ。
- 留萌の農業法人も高齢化している。ハローワークに出しているが、見つからない。雇用条件なのか。

４．新星マリン漁業協同組合

【開催概要】
○　平成 28 年 7 月 22 日（金）　11:05～11:55
○　新星マリン会議室

【出席者】
漁協：布施専務理事
委員：伊端座長、大舘副座長
市　：佐々木政策調整課主幹、江川政策調整課主査

****
【資料】
第６次総合計画市民会議(案)たたき台及びパワーポイント印刷資料

【内容】
①　座長挨拶
②　市民会議案説明
③　意見交換
- 留萌港への道路アクセスの問題がある。現状１か所しか大型車が通行できない。ＪＲ増毛線の廃線に伴い、整備を希望している。
- 市場の建て替え問題も抱えている。
- 担い手確保も課題。漁業就業者フェアにも参加しているが集まらない。補助制度等あるが、漁師で１本立ちするには長期間要する。住宅支援などやっていかなければ、難しい。
- 雇用主も通年での漁が無いため、研修の受入ができない。冬期間の雇用体制の確保が必要になるが、漁業だけでは難しい。
- 担い手として育成、漁師となるのであれば、船などの資材も引き継ぐと思われる。新品の初期投資は、必要無い者もある。
- 留萌の場合、ホタテ稚貝と異なり、パート的な人材の不足にはなっていない。
- 漁師の数が少ない現状から、漁場調整などの問題も発生しない。
- 留萌でのホタテ養殖を検討している。設備投資が必要となり臼谷と同じようにとはならない。養殖の場合初期投資を即回収するには時間がかかる。効果もなかなか現れないので、取り組みが進まない。
- ナマコ、ウニ、アワビなど磯焼けによる影響で獲れない。対策が必要。
- 水産業の振興は継続性が必要で、効果を上げるには時間がかかる。
- 担い手は、漁家の継承で続けている程度で、新規に漁師になりたいという人がいない。稼げる漁業でなければ、担い手は現れない。
- 底引き漁があった時までは賑わいがあったが、それ以降衰退。
- ナマコの窃盗（密漁ではなく）が発生した。（ナマコの泥吐きのため一時、港内に一時蓄養）防犯カメラの設置を要望したい。